

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問二（出典：『古今著聞集』）

◎品詞分解（非活用語は初出のみで、名詞は基本的に非表示。同色の助詞は同内容であることを示す。）

豊前国格助(体修)の 住人太郎入道格助(ハ四・体)といふ者ありけり。男なりける時、常に猿格助(ヤ上・用過去・終)を射けり。ある日、山格助(カ上二・体)を過ぐる格助に、大猿ありけりラ変・用過去・已接助(順推)は、木格助(ハ四・用)に追ひ登せて射たりけるほど格助(ヤ上・用過去・終)に、過たず、かせぎ格助(ヤ上・用完了・用過去・終)にて射てけり。すでに木より落ちむとしけるが、何とやらん格助(名)(※1)、物を木の股格助(カ四・体)に置くやうにするを見れば、子猿格助(名)なりけり。己格助(主)が傷を負ひて土格助(ハ四・用)に落ちむ格助(タ上二・未意志・終)とすれば、子猿格助(ハ四・用)を負ひたるを助けんとて、木の股格助(カ四・体)に据ゑむ格助(カ下二・未意志・終)としけるなり。子猿はまた母格助(ハ四・用)につきて離れじ格助(カ下二・未消意・終)としけり。かく度々すれども、なほ子猿格助(カ四・用過去・已)つきければ、もろともに地格助(カ下二・未意志・終)に落ちにけり。格助(完了・用過去・終)それより長く猿格助(名)を射る格助(格助ク・用)ことをば留めてけり。格助(連語(マ下二・用完了・用過去・終))

※1：「にやあらむ」の転。「に」は断定「なり」の連用形、「む」は推量「む」の連体形である。「くであるだろうか」と訳す。ちなみに「何とやらん」は挿入句である。

◎現代語訳（↓『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）